

### 最終試験結果の要旨

学位申請者 氏名	NGUYEN THI KIM QUYEN	
審査委員	主査 鹿児島大学水産学部 教授 佐野雅昭	
	副査 鹿児島大学水産学部 准教授 久賀みず保	
	副査 鹿児島大学水産学部 教授 安樂和彦	
	副査 鹿児島大学 農学部 准教授 李 哉玄	
	副査 鹿児島大学水産学部 准教授 鳥居享司	
審査協力者		印
実施年月日	令和 2年7月22日	
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。)		口答・筆答
<p>主査及び副査は、令和2年7月22日の公開審査会において学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は申請者が博士（水産学）の学位を受けるに必要な十分の学力ならびに識見を有すると認めた。</p>		

学位申請者  
氏 名

NGUYEN THI KIM QUYEN

【質問1】 2つの地区を調査対象としているが、このエリアを選んだ理由は何か？

【回答1】 調査対象とした2地区はともにメコンデルタ南部の主産地にあり、ほぼ同じ環境条件を有している典型的な養殖産地である。ただし協同組合の発展度合いに違いがあり、その違いを比較・観察するのに有効だと考え、この2地区を選んだ。

【質問2】 なぜこの2地区で協同組合の成立に違いがあるのか？

【回答2】 A地区はエビ養殖の歴史が古く、ベトナム政府が優良モデル地区として強く支援してきた。その結果政府の投資も大きく、協同組合も発展している。他方B地区は、最近5～10年間にエビ養殖業に参入した新興地域であり歴史が浅い。そのため今のところ協同組合形成の機運がないまま今に至っている。こうしたエビ殖における歴史と政府支援の有無が原因だと考える。

【質問3】 プレゼンテーションではアンケート結果の平均値を示した上でVietGapの有効性を主張しているが、分散はどのような状況なのか。分散状況によっては統計的に有意性があると言えないのではないか？例えば魚病の発生状況にはVietGapグループと非VietGapグループに有意な違いがあるのか？

【回答3】 原データや分散の状況は論文中に示している。項目によっては両グループ間に大きな差がないものもある。しかし魚病の発生状況にも、強くはないがある程度の弱い有意性があると考えられる。

【質問4】 VietGapの導入において、政府による支援や研修はあるか？

【回答4】 政府による様々なトレーニングプログラムが存在する。しかし零細生産者にはその存在自体が周知されていないため、まず研修への参加を呼びかけることから始めなければならないことが問題である。また研修参加に興味関心を持たせるためには、VietGapの導入により経営メリットが発生することを宣伝する必要がある。しかし現実にはそれ自体でメリットが発生することがないため、困難である。

【質問5】 他のアジア諸国でもGAP導入が盛んであるが、VietGapには違いや特徴があるか？

【回答5】GAP制度はFAOの基準をベースとして作成されており、どの国のものも基本的な内容に大差はない。ただし、それぞれの国や産業の実情に応じて少しずつ変更されている部分はある。ベトナムでは現在問題化している魚病対策と品質管理に焦点を当てた内容となっている。

【質問6】GAP制度は零細経営体にとって重要なものだと考えるが、しかしVietGapを実践している経営体のかなりの割合が、魚病発生時の管理者への報告を怠っていることがデータから読み取れる。これはなぜか？なぜこの項目だけ遵守されないのか？

【回答6】魚病が発生した場合は管理者に報告することが義務づけられているが、現実には統計を取るために報告させるだけで、特になんらかの対応策をとるわけではない。養殖経営体にとっては報告するメリットがないので、こういう状況になっている。特に零細経営体は養殖場の規模も小さいため、自分たちで解決しようとする傾向が強い。

【質問7】ASC認証やVietGapを取得する際の公的な財政支援はあるか？

【回答7】ASC認証については1年間、VietGapについては2年間の支援措置がある。しかしこの期間を過ぎると支援が打ち切られるため、この期間内に十分なメリットが得られる状況になっていなければ継続されない。実際には多くのケースでメリットが得られる状況には至らないため、開始した取り組みを継続することが困難となっている。それも、NGOや輸出先企業などからの支援が受けられ、メリットがすぐに顕在化しやすいASC認証への早期の移行が重要である。

【質問8】ASC認証は日本市場向けであれば特に必要ないものと思われる。ベトナムの養殖バナメイ輸出先としての国際市場や日本市場をどのように考えているのか？

【回答8】ASC認証の取得はコストが高い。ASC認証に十分なプレミアム価格を支払う意欲があるのはEU市場と米国市場であり、ASC認証取得した製品はまずそういう市場に向けて輸出される。日本市場はかつて良い販路であったが、今では相場が低くASC認証に対する評価も存在しないため、存在感は低下している。

国際市場への輸出を考えた場合、やはりなんらかの認証は必要である。しかしEUや米国市場でもVietGapは全く評価されない。やはりASC認証取得までレベルアップすることが最終的な目標とならざるをえない。VietGapとASC認証はその基準の多くを共通化しているため、ASC認証を取得する準備段階としてVietGapの取得は有効である。